

岡山県医労連

看護師確保の予算を削るな！県と懇談

県医労連は、2月2日に岡山県と看護師問題で懇談を行いました。2007年度予算案で看護師養成・確保にかかる予算を、今後3年間で800万円削減する計画です。削減項目は、看護学生への奨学金予算と潜在看護師の就労促進事業費です。看護師不足が、社会問題になっている現在、各病院は、院内保育所の充実や給与の改善など様々な対策を講じながら看護師確保に努めています。それでも、看護師不足でベッド閉鎖せざるを得ない病院も出ています。今回の岡山県の施策は、時代の流れに逆行するものです。



懇談では、看護師4名と役員5名が「削減しないで」と県に申し入れました。日本医労連の井上久中執も同席し、看護師不足の県の対応の遅れを指摘し、早急に調査し改善することを求めました。

276件の病院訪問 増員署名2万筆突破！

県医労連は「医師・看護師増員」をアピールしようと、岡山県内の病院約180件を訪問。1月には岡山・倉敷方面で80病院を、2月20日には津山方面16病院を訪問しました。医師の労働条件を問うアンケートもお願いしましたが、2月末現在で署名500筆とアンケート14人分が寄せられました。病院からは「7対1基準による争奪戦で看護師確保が困難」と署名の取り組みに共感が寄せられました。初めての病院訪問に参加した津山の仲間は、出発前にロールプレーで対話の練習をするなど、緊張気味でしたが「病院見学もでき、楽しかった」と元気よく行動してくれました。

全医労や倉敷医療生協労組がコツコツ積み上げており、全体では3月12日現在2万筆を突破しました。また医師アンケートは、岡山医療センターの退庁調査で医師24名が回答し合計36人分を集約しました。

江田・柚木議員(民主党)が紹介議員に

岡山選出の11名の国会議員の地元事務所を訪問し、増員請願の紹介議員になっていただくよう要請し、2人が今回、快諾してくれました。

和歌山県医労連

県議会で雑賀、村岡議員が看護師不足で質問 修学資金の2年課程通信制の枠を拡大 7対1基準、療養病床の影響調査行う

村岡議員は、2年課程通信制の問題を取り上げ、県内に開設されたが年々受講生が減少していることを憂慮。働きながら受講する厳しさを訴え、県の支援を求めました。県は修学資金制度の2年課程通信制の枠を拡大し、予算措置を行ったと回答。雑賀議員は、野上厚生病院に4月開校の看護学校について、小さな病院が看護学校を持つのは異例のことと、県に積極的な支援を求めました。

需給見通しについては、7対1基準の動向、療養病床の廃止の影響など、実態調査を行う考えを示しました。

「医師・看護師不足対策」県議会で継続審議に

民主・新生わかやま・共産・環境平和の7名が紹介議員に 県医労連は、2月16日、県議会で「医師・看護師不足対策」の請願を提出し7名が紹介議員になってくれましたが、県議会では、残念ながら継続審議になりました。

青森県医労連

署名強化週間設計外来で署名行動

県医労連は、2月5～9日を「増員署名とりくみ強化週間」に設定し、すべての単組支部で、病院外来での署名行動を提起しました。

八戸日赤単組は、方針を正面から受け止め、いままで経営者が病院玄関での署名宣伝を許可していませんでしたが、「ダメで元々」と、経営者に申し入れをおこないました。経営者は快諾すると同時に、机まで出してくれました。単組では、病院玄関での署名は初めてでしたが、深夜明けや休みの看護師も参加し、執行委員とともに外来患者さんや家族の方に訴えました。朝1時間の署名行動を3日間行い、555筆の署名を集めました。参加者も元気になり、確信になりながら、4月にもまた、計画中です。

民医連労組でも各支部で実施し、健生労組は、3月4月にもやろうと計画しています。

富山県医労連

3月6日の中央行動に富山県から参加した4名が、国会議員要請を行い、片山さつき(自民党)、馳浩(自民党・石川県連会長)が紹介議員になり、広野ただし(民主党)、村井宗明(民主党)、井上哲士(共産党)、又市征治(社民党)にも署名を提出しました。

村井宗明議員(民主)との懇談

私の母も看護師(保健師)

まず、嵯峨書記長から紹介議員になってもらったお礼を述べ、「看護師不足で、病棟を休止して看護基準を上げる傾向が生まれている。県の医務課との懇談で、新卒看護師の1年未満の離職割合は、全国9.3%に対し、富山県は11.6%と高い。看護学校の養成数を増やすことも必要だが、現在、働いている看護師の労働条件の改善をはかっていくことであり、看護師確保法の改正が求められている」と訴えました。参加者は「看護師不足で欠員、毎日の仕事が定時で終わらない。子供からは、お母さんは家で寝てばかりいる、私は、おばあちゃんに育てられた、といわれている」「看護師不足で3人夜勤から2人夜勤となり、仕事が終わらない。看護師の退職がとまらず、病棟を休止に」と実態を訴えました。



村井議員は、「私の母も看護師(保健師)で私もおばあちゃん子だ。今、国民が政治に対して望むものは、医療、介護、年金の改善だ。みなさんの訴えは、しっかり聞きました。がんばります」とコメントがあり、飴谷委員長から署名を提出しました。

井上哲士議員(共産党)との懇談

医師・看護師不足アンケートに600近い反響

井上議員とは、2回目の懇談です。嵯峨書記長が紹介議員になってくれたお礼を述べ、「1月の懇談時から状況は、かなり深刻な方向で変わりつつある」と県内の状況を説明。参加者が現場実態を語りました。井上議員からは、「共産党として、今、医師・看護師不足問題で医療機関にアンケートをとっていて、全国から600近いアンケートが返ってきている。今日も医師不足問題、国保取り上げ問題で小池議員が質問に立つ。みなさんとともにがんばりたい」とコメントがあり、飴谷委員長から署名を提出しました。